

“県民みんなの財産である熊本の森林を次の世代へ”

「熊本県水とみどりの森づくり税」事業に関する 実績報告書

令和4年度（2022年度）



熊 本 県

目 次

I 水とみどりの森づくり税事業の実績（令和4年度（2022年度））

- 1 事業費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 事業量等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり
 - (2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

II 令和4年度（2022年度）に実施した事業

1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

- (1) 防災・減災・景観保全森林整備事業・・・・・・・・・・ 9
- (2) 次世代につなぐ森林づくり事業・・・・・・・・・・ 10
- (3) エリートツリー苗木生産拡大事業・・・・・・・・・・ 11
- (4) シカ森林被害防止対策・・・・・・・・・・ 12
 - ①シカ被害造林地機能回復支援事業
 - ②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業
- (5) 特定鳥獣適正管理事業・・・・・・・・・・ 17
- (6) 伐採届出制度運用推進事業・・・・・・・・・・ 18
- (7) 試験調査事業・・・・・・・・・・ 19
 - ①センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究
 - ②シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究
 - ③シャカインの雄花着花性に関する研究
- (8) 自伐林家等育成対策事業・・・・・・・・・・ 22
- (9) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座・高校生体験研修）・・ 23
- (10) 地域の森を育てる担い手育成支援事業・・・・・・・・・・ 25
- (11) 森林吸収量クレジット化推進事業・・・・・・・・・・ 26
- (12) 災害に強い森林づくり先導推進事業・・・・・・・・・・ 27

2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

- (1) 県民の未来につなぐ森づくり事業・・・・・・・・・・ 28
- (2) 県民の森林整備事業・・・・・・・・・・ 34
- (3) 漁民の森づくり事業・・・・・・・・・・ 35
- (4) ふるさと熊本の樹木活用促進事業・・・・・・・・・・ 36
- (5) 水とみどりの森づくり税PR事業・・・・・・・・・・ 37
- (6) くまもとの木と親しむ環境推進事業・・・・・・・・・・ 38
- (7) くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業・・・・・・・・・・ 40
- (8) 特用林産物流通促進事業・・・・・・・・・・ 41

I 熊本県水とみどりの森づくり税事業の実績
(令和4年度(2022年度))

1 事業費

令和4年度（2022年度）は、総額571,896千円の税を活用しました。

（単位：千円）

施策（事業）	水森税充当額
1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり	447,379
防災・減災・景観保全森林整備事業（※1）（※6）	159,257
次世代につなぐ森林づくり事業（※2）（※6）	195,993
エリートツリー苗木生産拡大事業（※3）（※6）	9,947
シカ被害造林地機能回復支援事業（※4）（※6）	5,983
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	11,249
特定鳥獣適正管理事業	21,439
伐採届出制度運用推進事業	1,024
試験調査事業	
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	2,926
シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究	2,898
シャカインの雄花着花性に関する研究	2,500
自伐林家等育成対策事業	6,260
くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座・高校生体験研修）	3,907
地域の森を育てる担い手育成支援事業	7,312
森林吸収量クレジット化推進事業	6,363
災害に強い森林づくり先導推進事業	10,321
2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり	124,517
県民の未来につなぐ森づくり事業（※5）	65,290
県民の森林整備事業（※6）	600
漁民の森づくり事業	6,144
ふるさと熊本の樹木活用促進事業	1,820
水とみどりの森づくり税PR事業	1,950
くまもとの木と親しむ環境推進事業	20,824
くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業	26,689
特用林産物流通促進事業	1,200
合 計	571,896

- （※1） 令和3年度からの繰越分 1,401千円を含む。
- （※2） 令和3年度からの繰越分 69,244千円を含む。
- （※3） 令和3年度からの繰越分 3,100千円を含む。
- （※4） 令和3年度からの繰越分 480千円を含む。
- （※5） 令和3年度からの繰越分 913千円を含む。
- （※6） 令和5年度への繰越あり（計26,578千円）。

2 事業量等

(1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

事業名	主な実施内容	事業量
防災・減災・景観保全森林整備事業	流木発生抑制のため溪流沿い等の森林での強度間伐	440.02ha
次世代につなぐ森林づくり事業	伐採跡地の再造林や広葉樹林への転換及び確実な更新を推進	553.01ha
エリートツリー苗木生産拡大事業	再造林後の成長に優れ、CO2吸収源としても有効なエリートツリーの生産・供給に向けた取組の強化・支援を実施	2.10ha
シカ被害造林地機能回復支援事業	造林後のシカネットの見回り、補修、被害木の補植、被害防止資材設置等に対する助成や研修会を実施	448.03ha (点検)
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	シカによる人工林の被害面積を推定するためのプロット調査を実施 シカ被害の地域対策支援	調査箇所 515地点 4団体
特定鳥獣適正管理事業	シカを適正密度に誘導するため有害鳥獣捕獲を促進	18,818頭
伐採届出制度運用推進事業	森林法に基づく適正な伐採及び造林を推進するため、広報による制度の周知や現地調査による専門技術力の向上を図る	研修会 8回 現地調査 25回
試験調査事業		
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	センダンの伐期短縮化のための優良系統の選抜・増殖と直径成長を促進するための施業技術の開発	一式
シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究	シカの捕獲対策に必要な技術・猟具の検証	一式
シャカインの雄花着花性に関する研究	花粉の少ないスギに関する基礎研究	一式
自伐林家等育成対策事業	林業に必要な技術と現場力を持ち、森林を自ら守ることのできる自伐(型)林家の確保・育成の支援を実施	基礎講座 20名 フォローアップ講座 18名
くまもと林業大学校人財づくり事業(公開講座・高校生体験研修)	森林・林業に関心を持つ方に向けた公開講座や、高校生等を対象とした体験型研修を実施	公開講座 45名 高校生研修 259名
地域の森を育てる担い手育成支援事業	地域の林業の中核的役割を担う林研グループ等が実施する森づくり計画の作成、林業機械の導入等に対する助成	森づくり計画 3地区 林業機械助成 2地区

森林吸収量クレジット化推進事業	二酸化炭素吸収量の確保に必要な森林整備を促すため、J-クレジット制度の周知や取組に対する支援を実施	6団体
災害に強い森林づくり先導推進事業	「災害に強い森林づくり」につながる地図情報等の整備、研修会の開催や林地保全への配慮した取組に対する支援を実施	研修会 43名 8団体

(2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

事業名	主な実施内容	事業量
県民の未来につなぐ森づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体等の森づくり活動支援 ・森林公園の整備・活用支援 ・学校林等の整備や活動支援 ・立田山森林教室や自然観察会等の実施 ・森林インストラクターの養成等 ・森林ボランティア等の活動支援 	7団体 15団体 延べ 974人参加 観察会等27回 12人修了 相談 22回 現地指導 1回 研修会等 5回
県民の森林整備事業	森と親しむための森林公園の環境整備	4箇所
漁民の森づくり事業	植栽、下草刈りの実施 流木除去等の海岸清掃の実施	9.6ha 0.025km ²
ふるさと熊本の樹木活用促進事業	ふるさと熊本の樹木に関する普及啓発や樹木の基礎調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座 ・基礎調査 	延べ1回 36箇所
水とみどりの森づくり税PR事業	税制度の周知啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告掲載、PR活動 	新聞広告 1回 PR活動 3回
くまもとの木と親しむ環境推進事業		
くまもとの木製遊具推進事業	木製遊具・積み木の貸出 木育プログラムの実施	延べ 32回 1回
木とともに育つ環境整備事業	保育所等が机・椅子等の木製品を購入する経費の一部を助成	15施設
くまもとの木で育む教育推進事業	小学5年生社会科用及び中学技術・家庭科用副読本を作成、配布 木育インストラクターの認定	小5 17,364人 中1 18,088人 認定者 34人
くまもとの木とふれあう木育推進事業	木育活動を行う団体等の活動する経費の一部を助成	13団体
くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業		
木を活かした景観づくり事業	県産木材を使用した標識設置等による景観形成	7市町 14団体
木製塀普及促進モデル事業	県産木材を使用した木製塀の設置への助成	5市町 7団体

<p>特用林産物流通促進事業</p>	<p>森の恵み(特用林産物)の普及促進 ・PR活動 ・特用林産物の研修会 ・くまもと森の恵みサポーター募集</p>	<p>参加者 51人 登録 59人</p>
--------------------	---	------------------------------------

Ⅱ 令和4年度（2022年度）に実施した事業

1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

水を蓄え災害を防ぐことができる元気な森林を維持するため、手入れの行き届いていない人工林を自然林に近い状態へ誘導する施策や、伐採後の再造林支援、二ホンジカ（以下「シカ」という）による森林被害防止、地域の森林を守り育てる人材育成などの取組みを行っています。

(1) 防災・減災・景観保全森林整備事業

森林の公益的機能が維持されるには、適切な管理と整備が必要です。しかし、森林所有者の経営意欲の低下や山村経済の疲弊、人口減少等による担い手の不足などにより、管理が行き届かない森林が増加しています。

この事業では、森林所有者による適切な管理や整備が困難な人工林について、強度（本数で40%程度）の間伐を行い、立木に適度な間隔を持たせて森林への日光の入りを良くし、広葉樹等の下層植生の生育を促して、針葉樹と広葉樹が混ざった自然に近い森林に誘導することにより、山地災害防止等の公益的機能を高度に発揮できる、健全な森林の育成を図っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

間伐実施面積	事業を実施した市町村数	実績額（※）
440.02ha	22市町村	156,898千円

（※）令和3年度（2021年度）からの繰越額：1,401千円を含む。

令和5年度（2023年度）への繰越額：2,252千円あり。



間伐前の真っ暗な森林



強度の間伐後



将来イメージ



水森税を活用して整備した森林に看板を設置



(2) 次世代につなぐ森林づくり事業

森林の木を全部伐った後で適切に再造林を行えば、循環利用が可能な森林を次の世代に引き継ぐことができるとともに、災害防止や水源かん養などの公益的機能の維持が図られます。しかし、林業の採算性悪化など経済上の理由などにより、再造林が行われず放置される場合があります。

この事業では、伐採後の再造林が確実に行われるよう、必要な経費の一部（苗木代等）を支援し、伐採跡地の確実な更新を推進しています。

また、植栽木の確実な生育を確保するため、ネットなどのシカ食害防止施設設置等の支援を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
植栽に要する苗木代の一部助成	529.09ha	52,004千円
広葉樹植栽経費の一部助成	23.92ha	5,792千円
シカ食害防止施設設置への助成	ネット:224,216m ツリーシェルター:0.14m	80,109千円
保育支援	1146.17ha	57,819千円
荒廃農地森林造成	1.92ha	269千円

（※）令和3年度（2021年度）からの繰越額：69,244千円を含む。

令和5年度（2023年度）への繰越額：8,251千円あり。



再造林



シカ被害防止柵



保育支援

(3) エリートツリー苗木生産拡大事業

スギは材として優れている一方で、花粉症でお困りの方も少なくないことから、花粉量が従来よりも少ないなどの特性に優れた品種の苗木が求められています。

そこで、この事業では、花粉症対策につながるよう品種や系統が明確な優良苗木を生産して広く供給していくために、採穂に必要な経費を支援しています。また、初期の成長に優れ林業の低コスト化につながるエリートツリーの普及のための試験等を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
スギ採穂園の造成	0.84ha	1,369千円
特定母樹等導入実証事業	0.40ha	5,479千円
スギ精英樹成長比較試験地等造成事業	0.86ha	3,099千円

（※）令和3年度（2021年度）からの繰越額：3,099千円を含む。

令和5年度（2023年度）への繰越額：18,100千円あり。



スギ採穂園（1年目）



スギ採穂園（2年目）



スギ採穂園（3年目）

(4) シカ森林被害防止対策

①シカ被害造林地機能回復支援事業

シカが生息する地域で再造林を行うには、シカによる森林被害を防止するため、侵入防護柵等の設置が必要となりますが、経費が嵩むことから再造林の推進上の支障となっています。

そのため、この事業では、森林の健全な育成と公益的機能の維持増進を図るため、侵入防止柵等の設置に要する経費の一部を助成しています。

また、補植やシカ被害防止施設の復旧に要する経費、シカが樹皮を剥がす被害を防止する資材の経費についても、その一部を助成しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
シカ被害防止施設の点検	448.03ha	572千円
シカ被害防止施設の復旧	2,454m	1,857千円
シカ食害箇所の補植	13,280本	2,288千円
シカ被害防止柵の設置	1,018m	476千円
剥皮被害防止資材の設置	4.46ha	782千円

（※）令和3年度（2021年度）からの繰越額：480千円を含む。

令和5年度（2023年度）への繰越額：2,575千円あり。



シカによる食害



シカによる剥皮害



シカ被害防止柵



剥皮被害防止資材（ツリーシェルター）

②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業

ア) シカ森林被害調査事業

シカによる人工林の被害については、その状況を把握し、効果的な防除や捕獲対策を実施する必要があります。そのため、この事業では、全県でスギ・ヒノキの人工林 515 地点に調査プロットを設定し、定点観測によるモニタリング調査を実施しています。

その結果によると、人工林におけるシカ被害発生推定面積は、毎年 1,000ha 程度で推移しています。

○年度別シカ被害発生推定面積 (H21～R4)

(単位: ha)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
新規被害面積	1,028	924	789	922	758	1,413	875	1,010	870	947	819	891	1,045	646
累計被害面積	21,068	21,992	22,781	23,703	24,461	25,874	26,749	27,759	28,629	29,576	30,395	31,286	32,331	32,977

○地域別シカ被害発生推定面積 (R1～R4)

(単位: ha)

振興局	熊本	宇城	玉名	鹿本	菊池	阿蘇	上益城	八代	芦北	球磨	天草	合計
R1	46	19	0	0	0	199	88	17	390	60	0	819
R2	12	5	0	0	19	185	22	6	271	371	0	891
R3	94	0	0	0	18	181	107	50	288	307	0	1,045
R4	98	4	0	0	0	95	30	107	158	154	0	646



植栽木の食被害



スギ、ヒノキ人工林の剥皮被害



プロット調査

イ) シカ地域対策支援事業 (R2～)

地域協議会が行う、情報共有等検討会や地域独自のシカ被害対策等に対して支援しています。令和4年度(2022年度)は次の4団体に支援を実施しました。

(i) やつしろの山づくり推進協議会の主な取組み

林業者が管理するわなに通信機能付きセンサーカメラを設置し、シカの接近や捕獲情報を随時LINEで共有(写真1)することで、見回り労力の軽減や捕獲に対する林業者の関心を高めるのに貢献しています。

- ・林業者を対象としたわな設置技術研修会（写真 2）の開催（12/8）
参加した協議会会員への罠の配布、所有山林への設置
- ・若手育成狩猟活動支援事業を通じて、地元工業高校によるシカ捕獲に適した箱わなの開発を支援

獣害学習に取り組む県南の林業系高校 3 校を対象に、振興局の枠域を越えた合同の学習会を芦北高校演習林で開催（写真 3）し、森林管理署や地元市町とも連携して、被害の現状や各地の対策状況についての情報交換を行いました。

また、地元林業関係者と連携して、次の研修等を開催し、シカ対策への気運醸成や将来の担い手育成を推進しました。

- ・高校生向けの被害地現地見学
- ・狩猟試験対策講習
- ・ジビエ料理実習
- ・シカ柵設置研修



写真 1 罠に接近するシカ



写真 2 罠設置研修



写真 3 県南 3 校合同学習会

（取組成果）

R4 林業普及指導事業実施計画（八代普及区）成果指標

成果指標（累計）	R3 実績	R4 実績	R5 目標
狩猟免許取得者数（林業者・高校生）	14	22(前年比+8)	35
林業者によるシカ捕獲実施箇所数	44	49(前年比+5)	110

（ii）山鹿市被害防止対策協議会の主な取組み

山鹿市被害防止対策協議会会員及び猟友会会員、林業者、行政関係者等を対象に、宮崎県総合農業試験場鳥獣被害対策支援センターへの視察研修を実施しました。

わな捕獲技術向上講習会（応用編）に参加し、イノシシ・シカによる被害の現状及び被害の抑制につながる捕獲の考え方を学びました。

また、箱わな、くくりわなを使用した有害鳥獣の誘引及び捕獲の実技講習を受けることで、現場での実践的かつ効率的な捕獲方法の習得につながりました。



わな捕獲技術向上講習会

(iii) 水俣市有害鳥獣被害防止対策協議会の主な取組み
ICT 機器の設置をはじめ、講習会等に取り組みました。

- ICT 機器（親機）の設置
日時：R4. 11. 8
場所：水俣市内（中尾山）
- シカ対策講習会（くくりわなの設置に関する講習及び ICT 機器（子機）の設置）
日時：R5. 1. 11
場所：水俣市内（林業事業体所有林）講師：熊本県猟友会水俣支部
対象：林業事業体、局職員、市町職員、猟友会 合計 8 名
- 狩猟技術向上研修会
日時：R5. 2. 14
場所：水俣市内（中尾山周辺）
対象：新規狩猟免許取得者、農林業関係者、猟友会等 合計約 35 名
講師：熊本県猟友会、水俣支部・芦北支部

ICT 機器の導入による捕獲システムの実証試験により、当地域における ICT を活用した捕獲システムの実装について、市町担当及び猟友会の意識が醸成されました。

また、新規狩猟免許取得者や農林業関係者に対して、農林業被害の現状と捕獲の必要性を周知した結果、問い合わせが増えるなど、今後の新規狩猟免許取得者の増加が期待されます。

さらに、狩猟技術向上のため、くくりわなの製作や設置の仕方、有害鳥獣の捕獲後の解体・処分に関する研修を行い、積極的なシカ捕獲を呼びかけたこともあって、令和 4 年度のシカ捕獲頭数は令和 3 年度の約 1.4 倍になりました。



ICT 機器（親機）の設置



シカ対策講習会



狩猟技術向上研修会

(iv) 菊池地区林業研究グループ連絡協議会の主な取組み
ICT 機器を活用した調査や研修会等に取り組みました。

- ・シカ被害対策研修会の開催（開催回数 1 回、参加者 15 名）
- ・林業者の狩猟免許取得の促進
（林研グループ会員で狩猟免許取得者数 5 名）
- ・ICT センサーカメラを活用したシカの生息域及び被害状況の調査
- ・シカ被害対策へのヒントの共有

ICT 機器によりシカの実際の行動を確認できたことで危機意識が向上したり、林研グループ会員の意識や行動の変容を促したことで狩猟免許取得への挑戦へとつながりました。



シカ被害対策研修会



ICT カメラの設置



グループ LINE での情報共有

(5) 特定鳥獣適正管理事業

この事業では、シカを適正頭数に誘導するため、有害鳥獣捕獲によってニホンジカを捕獲した者に対する市町村の報奨金（国、県、市町村併せて1頭あたりおおむね9,000円以上）について、その経費の一部（1頭あたり1,000円以内）を助成しています。

また、狩猟者の減少・高齢化が進む中、次世代を担う若手の狩猟者の確保を図っていくため、農林系高校を対象に鳥獣被害の現状や対策に関する講座や、実際に猟具を取り扱う実習、キジの放鳥体験を行う出前講座を開催しています。

さらに、地域で若手狩猟者の育成・狩猟活動に取り組む団体への助成を行いました。

これらの取組みにより、28名の高校生が「わな猟免許」を取得しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

事業内容		実績額
有害鳥獣捕獲	32市町村 18,818頭	18,818千円
農林系高校への鳥獣被害防止に関する出前講座(2校)等		1,079千円
若手育成狩猟活動支援（5団体）		1,500千円



鳥獣被害に関する講座（阿蘇中央高校）



模擬銃を使った取扱い実習（矢部高校）



キジの放鳥体験（阿蘇中央高校）



箱わな設置実習（矢部高校）

(6) 伐採届出制度運用推進事業

森林資源の成熟化に伴い県内の伐採箇所は増加しており、不適切な伐採箇所や無届による伐採箇所、未植栽箇所の増加が懸念されています。

この事業では、伐採箇所の現地調査のほか、事業者や森林所有者の方向けのチラシの配布や、伐採指導を担う市町村担当者の技術力向上のための制度研修会の開催、伐造届出旗やステッカーの配布を行っており、市町村や事業者等への指導などを通して適正な伐採や造林の確保に努めています。

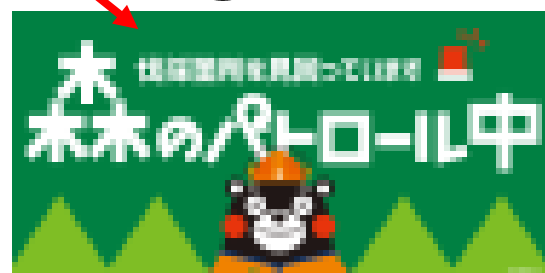
これらの取組みを通じて森林法第10条の8に基づく「伐採及び伐採後の造林の届出」(伐造届)による適正な伐採及び造林を推進し、森林の公益的機能の維持・増進を図っています。

○令和4年度(2022年度)の実績

内容	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・森林法第10条の8に基づく「伐採及び伐採後の造林の届出」がなされた箇所等の現地調査の実施 ・制度周知を目的とするチラシ等の配布の実施 	伐採箇所の現地調査に必要な体制の構築により、監視体制の強化が図られ、適正な伐採及び造林を推進



制度の研修会の開催と伐造届手続き証明旗の配布、現地掲揚を指導



チラシ(左)や巡回車用のステッカー(右)を作成・活用した制度の周知

(7) 試験調査事業

この事業では、多様で豊かな森林の造成・管理・保全を通して、森林が持つ水源かん養機能や防災・減災機能等の様々な公益的機能の維持増進を図るため、この税を活用して、さまざまなテーマで調査研究を行っています。



実施機関：熊本県林業研究・研修センター

① センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究

熊本県では、約 20 年程度の短い伐期（植栽から伐採までの期間）で収穫が可能なセンダン林の造成を進めています。

センダンは内装材や家具材として利用されており、これまでは 4.0m の直材生産を目標として、幹をまっすぐに仕立てるため「芽かき」を 4.5m の高さまで行っていました。用途を家具材に限った場合、長さ 2.0m の直材で需要が満たせることから、「芽かき」を 2.4m まで行った場合の成長量を調べました。

その結果、2.4m までの芽かきでは、4.5m までの芽かきに比べて直径成長が良好で、伐期を 10 年程度に短縮できる可能性があることを確認しました。

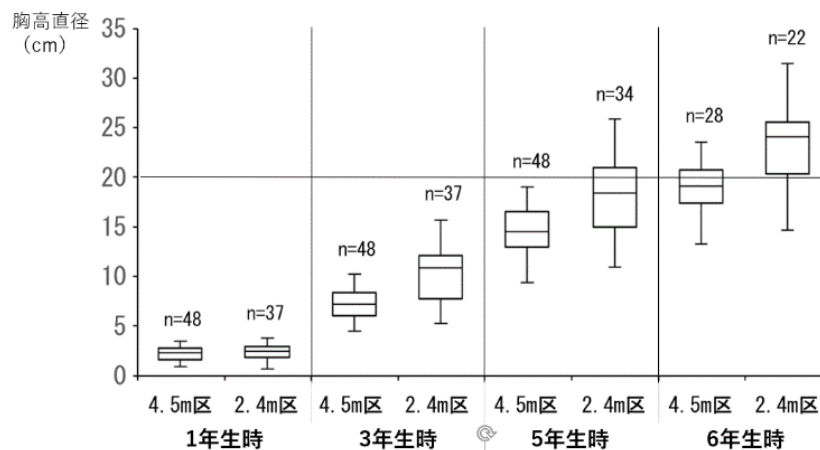


図1 芽かき高別の胸高直径の推移

② シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究

シカの生息数増加や生息域の拡大により、植栽した木や林地に生えている下草を食害され、樹皮を剥がされるなどの被害が増えており、森林環境や林業経営上、深刻な問題となっています。

その対策として、県では、シカから木を守る「防除」と、シカを減らす「捕獲」を行い、被害の軽減に努めています。「捕獲」では、わなの危険性をシカに学習させない高度な技術と、適正な「わな」の選択が必要です。そのため、わなによる捕獲技術や、シカ捕獲に適した「わな」を選定する指針づくりのための検証を行っています。

ア) シカ個体調査

県内の獣肉加工処理施設に搬入されるシカの個体サイズ（体重、体調、前足と後足の間隔、足の爪幅、妊娠の有無）等を調査し、技術検証の基礎資料としています。

イ) わな（くくりわな）の使用実態調査及び性能検証

県内におけるくくりわなの使用実態を調査し、併せてその性能を検証して、シカ捕獲に適したくくりわなを選定するための基礎資料とします。

ウ) わなによる捕獲技術の検証

シカにわなの危険性を学習させずに確実に捕獲するための手法を山林内で検証しています。

エ) 捕獲効率を高める環境整備技術の検証

足場の悪い場所を嫌うシカの習性を利用し、林内にある歩行経路に間伐材などを置いて通行を遮断し、捕獲に適した場所へシカを誘導して捕獲効率を高める技術の検証をしています。



写真1 シカ個体調査



写真2 わなの性能検証



写真3 わなの捕獲技術検証

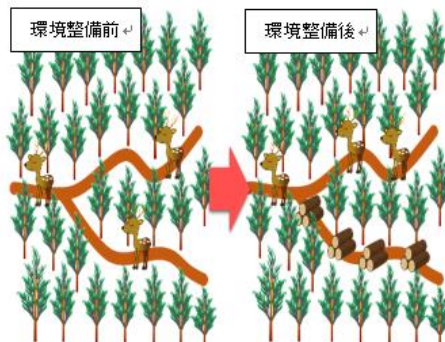


図1 環境整備による捕獲効率の検証

③ シャカインの雄花着花性に関する研究

近年、スギ花粉症が社会的に大きな問題となっており、スギ花粉発生源への対策として、花粉の少ない品種や系統（以下、「花粉症対策品種」という。）を植栽することで花粉飛散量を減らす取組みを当センターでも行っています。

県が選抜したスギ精英樹の「県下益城1号」は、県内で多く植栽されているスギ品種「シャカイン」の構成クローンのひとつですが、花粉を付け難い性質があり、県が平成28年度(2016年度)に花粉症対策品種（低花粉）として認定しています。県内の流通に限り、花粉症対策品種として取り扱うことができますが、さらに国指定の花粉症対策品種として登録されることを目指して、令和2年度(2020年度)から雄花着花性（雄花の着き具合）の調査を行っています。

この調査結果をもとに県下益城1号の雄花着花性を総合的に判定していきます。



写真1 スギ雄花



写真2 雄花着花性調査状況

(8) 自伐林家等育成対策事業

森林を適切に管理・整備し、公益的機能の維持増進を図るためには、地域の森林を自ら守り育てる人材の育成が重要です。

この事業では、くまもと林業大学の「自伐林家育成コース」等として、山村集落の活力を高めるための新たな山村を支える担い手（自伐林家等）の発掘・育成を図り、併せて地域における指導者（リーダー）である林業研究グループ等の活動を支援しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

これから森づくりを始めたいという初心者の方が林業の基礎知識等を学ぶ基礎講座については、4日間開催し、22名の参加がありました。

また、地域の林業研究グループ等の会員が、県内の林業系高校の4校において、高校生向けに高性能林業機械の実演研修会を開催しました。



基礎講座（安全に関する座学）



基礎講座（チェーンソー操作実習）



フォローアップ講座



フォローアップ講座（現地伐倒研修）



林業系高校生向けの高性能林業機械
実演研修（芦北高校）

(9) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座・高校生体験研修）

熊本県内の森林資源が成熟する中、木を伐って、植えて、さらに育てていくための人材の育成・確保が重要です。

このため本県では、平成31年（2019年）4月に「くまもと林業大学校」を開校し、林業に必要な技術と現場力を兼ね備えた即戦力となる人材の育成、そして意欲と能力のある林業経営者を養成することにより、次世代をリードする林業担い手の育成・確保を図っています。

①公開講座

一般の方を対象に、森林の公益的機能の普及啓発を図り熊本の森林・林業に魅力と親しみを感じてもらうため、木工品の制作や森林・林業ツアー等を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

講座の内容	参加人数等
アイスクリームスプーン制作	1回 6人
日本ミツバチの巣箱制作	1回 7人
くまもと森林・林業ツアー	1回 8人
ミニ門松づくり	1回 9人
ラダーラックづくり	1回 6人
木造建築の話・カッティングボードづくり	1回 9人



スプーン制作



巣箱制作



森林・林業ツアー



ミニ門松づくり



ラダーラックづくり



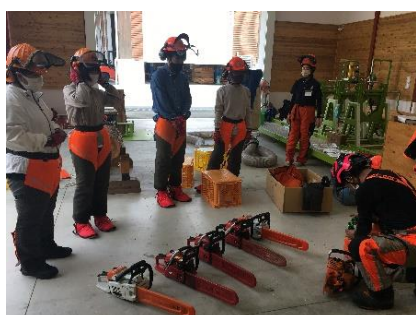
カッティングボードづくり

②高校生体験研修

県内の林業関係を勉強している高校生を対象に、熊本の森林・林業を身近に感じ、林業担い手に魅力を感じてもらうため、地域林業の実践体験やガイダンス等を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

体験研修の内容	参加人数等
地域林業実践体験	28人
地域林業ガイダンス（視察・体験）	231人



チェーンソー体験



製材工場視察

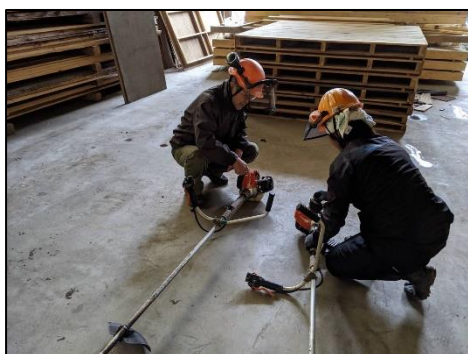
(10) 地域の森を育てる担い手育成支援事業

豊かな森林を確実に次の世代に引き継いでいくためには、自伐林家などの地域の森を守り育てる方々が、計画的・継続的に森林整備の活動を行っていただけるよう、将来にわたる活動の継続を見据えた支援が必要です。

この事業では、林業研究グループや林業者等の組織する団体が、所有林と併せて他者の森林を対象に森林整備を行う場合、森づくり計画の策定に要する経費や公益的機能の維持増進を目的とした森林整備研修、林業機械の導入に要する経費に対して助成を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

支援の内容	参加人数等
森づくり計画の策定	3地区
林業機械導入（購入）	2地区



刈払機を使った作業講習



森林整備研修



林業機械の導入

(11) 森林吸収量クレジット化推進事業

2050年における県内CO₂排出実質ゼロの実現のためには、CO₂の吸収源となる森林において、間伐等の整備をより一層進めていく必要があります。

この事業では、市町村や林業事業者等の更なる森林整備を促すため、J-クレジット制度^(※)の周知を行うとともに、間伐などの森林整備によるCO₂吸収量をクレジット化するための支援を行っています。

(※) J-クレジット制度 … 省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績
制度説明会の開催	参加者 55 団体、84 人
支援を行った団体数	6 団体



制度説明会



支援の様子

(12) 災害に強い森林づくり先導推進事業

近年、森林資源の充実に伴って皆伐が増加傾向にあり、林業生産活動が活発になっています。一方、地球温暖化に伴う異常気象による土砂災害が頻発化・激甚化する中、地域住民をはじめ多くの方々が森林の土砂災害を防ぐ機能を再認識し、その機能の継続的な発揮へ期待を寄せています。

この事業では、林業関係者に対して、経済活動としての林業と県土保全の両立ができるように、災害の発生リスク低減の視点を取り入れた林業活動の実施について普及推進しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

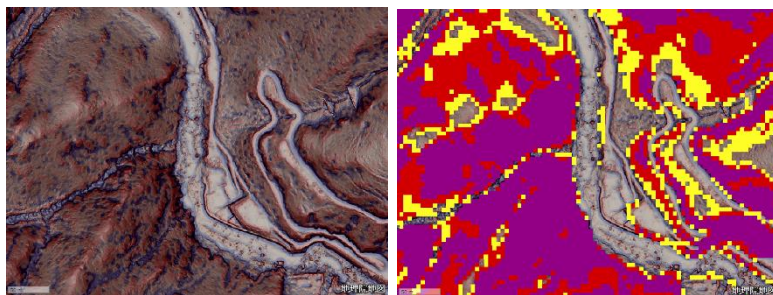
令和2年7月豪雨災害で、山地災害や土砂流出が発生した球磨地域の幸野溝・新幸野溝上流地域のモデル地区において、図面及び現地確認による災害が起こりやすい地形などの判読方法や、その施業方法について「林地保全に配慮した林業のガイドライン」として作成し、モデル地区でのガイドラインに基づいた現地検証を行いました。

また、災害の起こりやすい地形を林業事業者等が簡単に判別できるようデジタルマップを作成しました。

内容	実績量
災害に強い森づくり研修会	参加者 43名
ガイドラインに基づいたデジタルマップの作成	地形表現図（CS立体図） 傾斜区分図の作成



モデル地区での現地検証



林地保全に配慮した林業のガイドラインデジタルマップ
（CS立体図）
（傾斜区分図）

2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

県民の皆さまによる森づくり活動の支援、次世代を担う子どもたちへの森林環境教育、木のぬくもりや香りに親しむ環境づくり、県産木材を活用した景観づくりなどを通じて、森林の果たす役割やその重要性についての普及啓発を行っています。

(1) 県民の未来につなぐ森づくり事業

この事業では、森林の役割や重要性への県民の皆さまの理解向上や、森づくり活動への支援等を推進することで、県民全体で森林に触れ親しみ、守り育てるという意識の醸成を図っています。

① 県民みんなによる森づくり活動の支援

森林ボランティア団体等による植栽や間伐などの森づくり活動や、森林環境学習などの森づくりにつながる活動を推進するとともに、ボランティア活動内容の多様化に対応するため、自らのアイデアによる県民応募型活動を支援しています。

また、学校教育の場において体験的な森林環境教育が実践できるように、学校林など活用拠点の整備を支援するとともに、児童・生徒を対象にした間伐、下刈り等の森づくり活動体験や、自然観察、木工教室などの森林環境教育を支援しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

森林ボランティア7団体により、植栽1.67ha、下刈り5.26ha等の森づくり活動が行われ、計511人の参加がありました。また、県民応募型活動としては、シイタケ駒打ちや自然観察等の森林環境教育が3団体、青年を対象とした森林整備等研修会が1団体により行われ、計348人の参加がありました。

また、自然観察会や木工体験等では、974人の児童生徒や保護者等が参加し、森林への関心を深めるとともに、その役割や森林整備の重要性・必要性について学びました。

合計で1,833人が森づくりに関する活動に参加され、県民参加の森づくりに関する意識の醸成が図られました。

ア) 団体等による森づくり（7団体）

植栽：1.67ha
下刈り：5.26ha
参加者数：511人

イ) 県民応募型活動 (4 団体)

森林環境教育 (木工、シイタケ駒打ち体験、薪づくり体験等) 3 団体
青年を対象とした実施研修会 (竹林整備等) の開催 1 団体 1 回
参加者数 348 人



木育の実施



竹林整備

ウ) 学びの森活動推進

体験学習：下刈り、枝打ち、植栽、木工教室、シイタケ駒打ち体験、炭焼き体験等 (10 団体)



炭焼き教室



シイタケ駒打ち体験



体験学習 (枝打ち)



体験学習 (植栽)

②森林公園の整備・活用の支援

市町村等が整備した森林公園（ふるさとの森林、みどりの小径）を対象として、県民の皆さまがより利用しやすくなるように市町村が実施する案内板等の標識の設置、歩道や管理道の整備等の事業を支援しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

熊本市の立田山憩の森をはじめ、県内15市町村で公園内の森林整備や遊歩道の整備等を行いました。

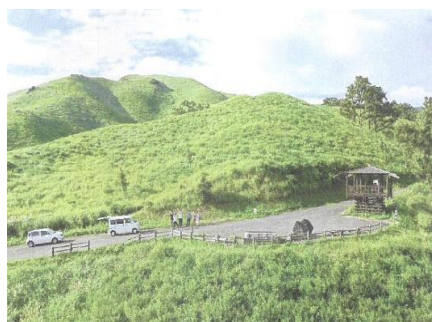
ア) 森林公園の整備・機能充実

「ふるさとの森林」及び「みどりの小径」として県が認定した森林公園を対象に市町村が実施する次の事業を支援しています。

- ・ 森林整備（植栽、下刈、除間伐、枝打ち）
- ・ 路網整備（歩道又は作業道の開設・補修）
- ・ 標識類整備（樹名板、標識及び案内板の設置・改修、パンフレット類の作成等）
- ・ 休憩施設（木製東屋、木製ベンチ及び木製テーブル等の設置・補修）
- ・ 安全防護施設（木製防護柵及び階段等の設置・補修）
- ・ 利便性向上施設（簡易トイレ及び給排水施設等の設置・補修）



案内板の改修



木製防護柵の改修

③森林環境教育等の支援

県内各地の森林公園等を利用した森林自然観察・体験教室や親子で学べる立田山森林教室の開催等、県民の皆さまが森とふれあい、森を知る機会を提供しています。

また、森林インストラクター養成事業にも取り組んでいます。

○令和4年度（2022年度）の実績

県民の皆さまに森林に親しんでいただくことを目的に、県内各地の森林で「森林自然観察・体験教室」を10回開催し、延べ221人の参加がありました。

あわせて、熊本市内の立田山と雁回山では交互に「森林ガイド」を17回開催し、延べ327人の参加がありました。

参加された方からは、「春の息吹を感じながら気持ちよく歩けた。勉強になったし、一年を通じて来てみたい」、「植物の観察や名称の説明だけでなく、環境や歴史についての解説が聞くことができ楽しめた」などの意見をいただき、森林や自然環境への理解を深めていただくことができました。

また、11月第2日曜日は「九州森林の日」となっており、毎年熊本県では「くまもと森づくり活動の日」としてイベントを開催しています。令和4年度（2022年度）は熊本県林業研究・研修センターで開催し、350人の参加者がありました。

加えて、森林インストラクターは「森の案内人」と呼ばれ、自然観察や体験活動を通して、森林の機能や恩恵を森林利用者に普及させる役割を担っています。令和4年度（2022年度）は、養成講座を修了した12人に修了証を交付しました。この12人は1年間のインターン活動を経て、熊本県森林インストラクターとして認定される予定です。



自然観察・体験教室の状況



森林ガイドの状況



くまもと森づくり活動の日の状況

④森林ボランティア等の活動支援

熊本県では、森林ボランティアの活動に関する総合窓口として「森づくりボランティアネット」を設置しています。森林ボランティア団体などの県民の皆さまへの情報提供や相談の受付、現地指導、必要な資材の貸出、技術研修会などを行い、森林ボランティアの活動を総合的に支援しています。

また、企業等の森づくりを促進するため、社会貢献や環境問題に取り組まれる企業等からの相談の受付、意見の調整なども行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

森林ボランティア等に関する相談を22件受け付け、現地指導を1回行いました。

また、森づくり活動に必要な鎌や鉋等の貸出を32回行いました。

さらに、研修会や活動報告交流会を5回開催し、418人の参加がありました。

現在、森林ボランティアに取り組んでいる登録団体は68団体があり、県民参加の森づくりにご協力いただいています。



リーダー研修会：炭窯を囲んで意見交換



初心者研修会：採取したドングリの観察



初心者研修：手ノコでの間伐体験



活動報告交流会

(2) 県民の森林整備事業

多くの県民が利用する森林公園である「立田山憩の森」では、施設の老朽化等による損傷もみられ、安全性・利便性の向上が必要になっています。

そこで、この事業では、県民の皆さまが安心して森林に触れ、親しむ環境の整備を進めています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績（※）
木製階段の設置	3箇所
カーブミラー、ガードレールの設置	1箇所

（※）令和5年度（2023年度）への繰越額：400千円あり。



木製階段



ガードレール

(3) 漁民の森づくり事業

この事業では、漁業関係団体等が実施する森づくり活動への支援を行うことにより、川上と川下が連携した県民参加の森づくりへの意識醸成と、公益的機能の維持増進が発揮される森づくりの推進を図っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	団体数	規模	参加人数
植栽、下草刈り等の森づくり	4団体	9.6ha	883人
海岸清掃	2団体	0.025km ²	221人



下草刈り



植栽

(4) ふるさと熊本^の樹木活用促進事業

ふるさとの自然を大切にする県民意識の高揚を図り、県民の豊かな自然環境及び生活環境を維持することを目的として、県民が祖先から受け継ぎ、ふるさとの象徴として地域の歴史と伝統を秘めた樹木を、「ふるさと熊本^の樹木」として登録しています。

県は、市町村と協力して「ふるさと熊本^の樹木」の適正な保存のために必要な基礎調査を行い、その必要性について県民の理解を深めるよう適切な措置を講じる必要があります。

しかし、由緒ある樹木等を広く周知するための継続的な情報発信ができておらず、県民の理解を深めるための機会を提供できておりません。

この事業では、「ふるさと熊本^の樹木」に登録された樹木の基礎調査を実施し、県民への周知を図るための出前講座を実施する等、樹木の適切な保存管理と理解の醸成を図っています。

○令和4年度(2022年度)の実績

内容	実績
樹木の基礎調査	36箇所(熊本市、上益城地域)
普及啓発のための出前講座	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと熊本^の樹木のある神社にて、登録樹木の観察とその周辺の自然環境の現地観察・ふるさと熊本^の樹木の概要説明・登録樹木の由緒や樹木の種類、維持保存の必要性について講師を招聘した座学による講座の実施



基礎調査の様子



出前講座の様子

(5) 水とみどりの森づくり税PR事業

この事業では、広く県民の皆さまに森林の役割や重要性に対する認識や関心を深めていただき、税や税事業の必要性、使途、効果等を理解していただくため、新聞広告やPRイベント等を活用し、広報活動を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

事業内容	実績
大型商業施設等での税事業PRイベント	3回
新聞広告掲載（主要5紙）	1回
県政広報ラジオ番組によるPR	1回
市町村・森林組合の広報誌への掲載	随時



大型商業施設等でのPR活動



農業フェアでのPR活動

熊本県からのお知らせ 県政情報は 熊本県 秩南

水とみどりの森づくり税

～くらしを支える森林を守り育てる取り組みのご紹介～

森林は、水を蓄え災害を防ぐなどの役割を担っており、私たちのくらしを支えている県民共有の大切な財産です。県では、この大切な森林を守り育て、次の世代へ引き継いでいくため、「水とみどりの森づくり税」を活用して、さまざまな取り組みを進めています。

<p>1. 県民の安全安心を守る森づくり</p> <p>手入れが行き届いていない森林において、崩落(おんぼつ)などの適切な整備を行い、土砂災害などを抑えることが出来る健全な森林づくりを進めています。</p>	<p>4. 森に触れ、親しみ、みんなで支える意識づくり</p> <p>学校への木製品の導入や森林体験教室の開催など、子どもたちをはじめとする県民の皆さんが木に親しみ、森林の役割を理解していただくための取り組みを進めています。</p>
<p>2. 次世代につなぐ熊本の森づくり</p> <p>健全な森林を次の世代に引き継ぐため、伐採後の継林への支援や、森林に被害を及ぼすシカの侵入を防ぐネットの設置などの取り組みを進めています。</p>	<p>5. 森の恵みを活かす意識づくり</p> <p>県産木材を活用した建築物などの整備による景観づくりを支援し、森林の恵みを生かす取り組みを進めています。</p>
<p>3. 森づくりを進めるための基盤づくり</p> <p>森づくりの基盤となる、地域の森林を守り育てる人材の育成や活動支援などの取り組みを進めています。</p>	<p>みんなで森を守るモン</p> <p>熊本県水とみどりの森づくり税 緑税</p> <p>問い合わせ先 森林整備課 TEL096-333-2438</p>

新聞広告

(6) くまもとの木と親しむ環境推進事業

この事業では、多くの県民の皆さま、特に次世代を担う子どもたちに、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用が、多様で豊かな森林を未来に繋ぐことを理解し、木材を身近に感じてもらうため、木の温もりや香りに親しむ環境を提供しています。

○令和4年度（2022年度）の実績

①くまもとの木製遊具推進事業

幼稚園や保育所、県内で開催されるイベント等に県産材で作った木製遊具を貸し出すとともに、木育プログラムを実施しました。

内容	実績
木製遊具の貸出	32回
木育イベント	1回



積み木セット



ヒノキの棒プール

②木とともに育つ環境整備事業

幼稚園・保育所等において、県産木材を使用した木製の机、椅子、棚等を購入する際の経費の一部を助成しました。

なお、導入施設では、森林の役割や木材利用の意義などに関する学習会も行われています。

内容	実績
施設数	15施設



保育所に導入された木製遊具

③くまもとの木で育む教育推進事業

ア) 副読本の作成・提供

義務教育課程における木育推進のため、小学5年生社会科用及び中学校技術・家庭科用の副読本を作成し、県内すべての小中学校等へ提供しました。



小学5年生社会科用副読本とガイドブック

中学校技術・家庭科用副読本とガイドブック

内容	実績
副読本提供児童生徒数	(小学5年生) 約17,400人 (中学1年生) 約18,100人
ガイドブック(教師用)提供数	502校

イ) 木育インストラクターの養成講座

木育に関心を持つ県民の方を対象に、「森林や林業の仕組み」や「木材利用の意義」について学び、社会教育活動の企画・運営に役立つ実践プログラムや指導技術を習得していただくため、木育インストラクター養成講座(初級・中級・上級 計3回)を実施し、受講者を熊本県木育インストラクターとして知事認定しました。



養成講座認定証

内容	実績
認定者数	34人
累計(H24~)	377人

④くまもとの木とふれあう木育推進事業

県内各地域で木育活動を行う団体に対して、活動経費の一部を助成しました。

内容	実績
実施団体数	13団体



助成を行ったイベントの様子

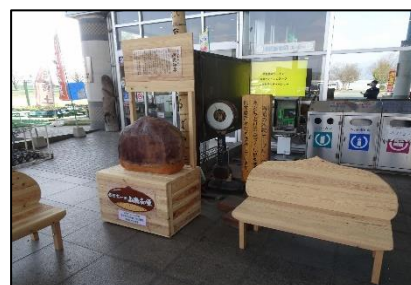
(7) くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業

この事業では、多くの県民の皆さまが利用、または目に触れる公共的空間（観光地や商店街など）に、県産木材を活用した建築物や案内板、外構、ベンチ等の施設の設置又は補修することにより、実施地域における一定の広がりのある統一空間（町並み、自然、歴史及び文化的空間）の形成を図る活動への支援を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

①木を活かした景観づくり事業

県内7市町（熊本市、阿蘇市、山鹿市、水俣市、八代市、小国町、山都町）の14団体が行うベンチ・長椅子、看板、案内板等に県産木材を活用した景観づくりへの助成を実施しました。



②木製塀普及促進モデル事業

県内5市町（熊本市、人吉市、阿蘇市、小国町、御船町）の7団体が行う県産木材を活用し木製塀の設置への助成を実施しました。



(8) 特用林産物流通促進事業

この事業では、シイタケをはじめとする森の恵みの普及促進による特用林産物の消費拡大を通じ、県民の皆さまと一緒に森林の維持や山村地域の活性化をサポートしていくための情報の発信を行っています。

○令和4年度（2022年度）の実績

内容	実績
特用林産物をPRするための情報発信	Web広告
「森の恵みサポーター」の登録	登録59人
特用林産物の研修会を開催	1回（31人参加）

森の恵みである特用林産物に関するPR動画を作成し、SNSやホームページを通じて広く情報を発信しました。

さらに、県民を対象として特用林産物の振興を応援する「森の恵みサポーター」をはじめ、これにより生産者側からの情報発信だけでなく、サポーター（消費者）からも特用林産物の消費拡大を促進する情報が発信され、相互に特用林産物を応援する体制を整えています。

また、「森の恵みサポーター」を対象として、特用林産物関係団体の日頃の取組みの紹介や特用林産物の魅力を伝えるための研修会の開催など、特用林産物とのふれあい体験活動を実施しました。



シイタケの駒打ち体験



特用林産物PRイベント



特用林産物PRイベント

